

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究

第 23 号

---

京都大学高等教育研究開発推進センター

2017

# 目 次

## 第一部 論 考

### 実践報告

「学科全員留学プログラムの評価を目指した留学後の学生アンケートの質的・量的分析」

山 川 健 一 安田女子大学文学部…………… 1

「学生が自己評価基準を設定し学習内容の振り返りを行う大学授業の実践と評価」

森 裕 生 鹿児島大学高等教育研究開発センター／早稲田大学人間科学学術院

網 岡 敬 之 早稲田大学大学院人間科学研究科

江 木 啓 訓 電気通信大学大学院情報理工学研究科

尾 澤 重 知 早稲田大学人間科学学術院…………… 13

「文章力養成のためのルーブリック活用の教育的意義の検討—授業実践から見る教育手法—」

西 谷 尚 徳 立正大学法学部…………… 25

### 研究ノート

「北中部地区基準協会高等教育委員会におけるアクレディテーションプロセスの特色

—わが国の認証評価制度改善への示唆—」

山 口 豪 デジタルハリウッド大学…………… 37

「米国獣医師会教育審議会のアクレディテーションシステムの特徴

—国際的通用性のあるわが国獣医学教育評価システム構築への示唆—」

山 口 豪 デジタルハリウッド大学…………… 49

「リフレクションのプロセス・モデルの検討—Schön の省察的実践論と Engeström の探究的学習モデルの縫合—」

河 井 亨 立命館大学教育開発推進機構…………… 59

「外国語教育における母語運用の有効性に関する検討」

辻 香 代 立命館大学言語教育センター…………… 69

### ショートレポート

「アクティブなグループ学習のためのグループ編成とは？—行動特性・性格特性を測る尺度を用いた多様性の実現—」

森 川 由 美 創価大学学士課程教育機構

富 岡 比呂子 創価大学教育学部…………… 81

## 高等教育の動向

「学位プログラム化の要件—大学教員のエキスパート・ジャッジメントの涵養—」

深堀 聡子 国立教育政策研究所高等教育研究部…………… 85

「米国における IR/IE の最新動向と日本への示唆」

浅野 茂 山形大学・学術研究院…………… 97

---

## センター教員・共同研究論考

「MOOC の行動ログと質問紙を組み合わせたデータ分析の設計」

田口 真奈 京都大学高等教育研究開発推進センター

後藤 崇志 滋賀県立大学人間文化学部

毛利 隆夫 富士通株式会社

飯吉 透 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 109

## 第二部 記録

### 日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌（2016年4月1日～2017年3月31日）…………… 119

高等教育研究開発推進センター組織（2016年4月1日～2017年3月31日）…………… 130

高等教育研究開発推進センター教員業績（2016年4月～2017年3月）…………… 132

### 『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規程…………… 152

『京都大学高等教育研究』投稿規程…………… 152

## 『京都大学高等教育研究』編集規程

（2016年5月18日改正）

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。
2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動に関する記事等を編集掲載するほか、投稿論考、招待論文を掲載する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規程に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規程は、2016年度発行の『京都大学高等教育研究』第22号から施行する。

---

## 『京都大学高等教育研究』投稿規程

（2017年5月12日改正、10月11日修正）

（全般）

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとする。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポート、招待論文、センター教員・共同研究論考に区分される。
  - ①研究論文：学問的な手続きに基づいて行われた、高等教育に関する独創性・新規性のある研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考。
  - ②研究ノート：高等教育に関する特定のテーマについて、国内外の諸研究を広く検討し独自の観点から分析したものであり、高等教育研究への有益な資料となる論考。
  - ③実践報告：高等教育における事例の分析や実践の効果検証などを通じて、高等教育の新たな実践の展開に示唆を与える論考。
  - ④ショートレポート：高等教育に関する理論的・実践的な知見をまとめた短い論考。独創性・新規性は必ずしも高くなくても、研究の方法と成果を明確に記述したもの。ただし、前年度の大学教育研究フォーラムでの発表内容を発展させたものであり、投稿できるのは第一発表者のみとする（連名は可）。
  - ⑤招待論文：編集委員会が寄稿を依頼して書かれた高等教育に関連する総説、動向の紹介等の論考。
  - ⑥センター教員・共同研究論考：センターの教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考。
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポートのいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成するものとする。ただし、ショートレポートは日本語のみとする。
7. 論考は以下の作成要領（詳細は「テンプレート」参照）によって作成するものとする。ただし、招待論文、センター教

員・共同研究論考は(1)に準ずるが、費用・分量については、この限りではない。

(1) 研究論文、研究ノート、実践報告

〈日本語の場合〉

- ・A4縦置き・横書き、50字×45行(2段組)で、原則10ページ以内(最大12ページ以内)。
- \* フォントは、(日)MS明朝、(英)Times New Roman、文字サイズは10ポイントとする。
- \* 上記のページ数には、表題、要旨(日本語:400字程度、英語:200~300語程度)、キーワード(日本語・英語、5つまで)、図表、注、文献を含む。
- \* 超過分については、印刷費の一部として、1ページあたり1万円を著者の負担とする。

〈英語の場合〉

- ・A4縦置き・横書き、50字×45行(2段組)設定で、原則10ページ以内(最大12ページ以内)。
- \* フォントはTimes New Roman、文字サイズは10ポイントとする。
- \* 上記のページ数には、表題、要旨(日本語:400字程度、英語:200~300語程度)、キーワード(日本語・英語、5つまで)、図表、注、文献を含む。
- \* 超過分については、印刷費の一部として、1ページあたり1万円を著者の負担とする。

(2) ショートレポート

〈日本語のみ〉

- ・A4縦置き・横書き、50字×45行(2段組)で、4ページ以内。
- \* フォントは、(日)MS明朝、(英)Times New Roman、文字サイズは10ポイントとする。
- \* 上記のページ数には、表題、要旨(日本語:300字以内)、キーワード(日本語・英語、5つまで)、図表、注、文献を含む。

8. 原稿提出に際しては、『京都大学高等教育研究システム』(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal/>)の「新規論考投稿」ページにある「論考情報入力」に必要事項を記入して原稿をアップロードする。また、同一ページにある、投稿論考が規程の条件を満たしているかどうかのリストにチェックを入れる。

(用語)

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

(注・文献)

11. 注及び文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。文献の書き方については以下を参照のこと。

〈例〉

①論文

- ・田口真奈(2007)。「高等教育におけるIT利用実践研究の動向と課題—eラーニングと遠隔教育を中心に—」『京都大学高等教育研究』13号, 89-99.
- ・Dall'Alba G., & Barnacle, R. (2007). An ontological turn for higher education. *Studies in Higher Education*, 32(6), 679-691.

②単行本

- ・田中毎実(2003)。「臨床的人間形成論へ—ライフサイクルと相互形成—」勁草書房.
- ・京都大学高等教育研究開発推進センター(編).(2003)。「大学教育学」培風館.
- ・松下佳代(2010)。「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」松下佳代(編著)『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネルヴァ書房, 1-42.
- ・Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp. 247-272). Washington, DC: American Psychological Association.
- ・Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement*. San Diego: Academic Press. ハーモンス, H.・ケンペン, H. (2006)。「対話的自己—デカルト/ジェームズ/ミードを超えて—」(溝上慎一・水間玲子・森岡正芳

訳）新曜社.

12. 文献と注を区別し、注は本文中の該当個所に、上付き文字で1、2……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名，出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a、b、c……をつける。

〈例〉

- ・田中（1995a）が強調するように
- ・……という調査結果も提示されている（田中他，1996）。

（その他）

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし掲載誌2部を贈呈する。なお、抜刷については、希望があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。
  - ①原稿締切日：8月31日23時59分まで
  - ②提出方法：『京都大学高等教育研究システム』（<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal/>）にログインをして「新規論文投稿」よりオンラインで提出。なお、システムの利用には投稿者の登録が必要である。
  - \* 3日以内（土日祝日含まず）に受領返信メールが届かなければ、お問い合わせください。
16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。
17. 本規程の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規程は、2017年度発行の『京都大学高等教育研究』第23号から施行する。

#### ■問い合わせ先

- ・『京都大学高等教育研究システム』に未登録の方  
『京都大学高等教育研究』編集委員会にメールでお問い合わせください。  
kiyou[at]highedu.kyoto-u.ac.jp（[at]を@に置換してください。）
  - \* メール送信の際、件名に「京都大学高等教育研究についての問い合わせ」とお書きください。
- ・『京都大学高等教育研究システム』に登録済の方  
『京都大学高等教育研究システム』の「編集委員会へお問い合わせ」から件名を選択の上、お送りください。

『京都大学高等教育研究』第23号 編集委員会

編集委員長	松 下 佳 代	
編集幹事	斎 藤 有 吾	
編集協力者	飯 吉 透	溝 上 慎 一
	田 口 真 奈	酒 井 博 之
	山 田 剛 史	岡 本 雅 子
	鈴 木 健 雄	

平成29年11月30日 印刷

非売品

平成29年12月1日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター  
京都市左京区吉田二本松町 (〒606-8501)  
TEL 075-753-3087  
FAX 075-753-3045

印 刷 中西印刷株式会社  
京都市上京区下立売通小川東入ル  
TEL 075-441-3155

# Kyoto University Researches in Higher Education

## vol. 23

### CONTENTS

#### I Articles

##### Educational Practice Reports

- A Qualitative and Quantitative Study of the Impacts of a Study-Abroad Program: Pursuing Ways to Improve the Program  
..... Kenichi Yamakawa
- Practical Study of Reflection through a Course using Students' Self-Evaluation Criteria  
..... Yuki Mori, Takayuki Amioka, Hironori Egi & Shigeto Ozawa
- Considering the Educational Significance of Rubrics in Academic Writing:  
An Educational Method to Judge from Lecture Practice ..... Hisanori Nishitani
- 

##### Research Notes

- Characteristics of the Accreditation Process in the Higher Learning Commission on the North Central Association of  
Colleges and Schools: Implications for Improving the Certified Evaluation and Accreditation System in Japan  
..... Go Yamaguchi
- Characteristics of the Accreditation System in the American Veterinary Medical Association Council on Education:  
Implications for the Establishment of the Internationally Valid Evaluation System of Japan in Veterinary Education  
..... Go Yamaguchi
- The Process Model of Reflection in Experiential Learning: Integrating Schön's Reflective Practice Theory and Engeström's  
Investigative Learning Process Model ..... Toru Kawai
- Reviewing the Effect of First-language Use as a Writing Strategy ..... Kayo Tsuji
- 

##### Short Report

- Effective Grouping for Active Learning: Examining Diversity by Behavioral and Personality Traits  
..... Yumi Morikawa & Hiroko Tomioka
- 

##### Trends of Higher Education (Invited Paper)

- Fostering Faculty Expert Judgment: A Necessary Condition for Degree Program Development ..... Satoko Fukahori
- Institutional Research and Institutional Effectiveness Trends in US Higher Education and Implications  
for Japanese Universities ..... Shigeru Asano
- 

##### Articles by the Center Staff and Research Fellows

- Designing Data Analysis by Integrating Action Logs in the MOOC and Questionnaire Surveys  
..... Mana Taguchi, Takayuki Goto, Takao Mohri & Toru Iiyoshi
- 

#### II Documents